

お寺にもできる災害支援活動

浄土真宗のお寺が持っているものは、日常力です。

お寺が持っている寺院施設・人間力・組織力・経験・備蓄物品を
大規模災害発生時に活用していきましょう。



浄土真宗本願寺派宮崎教区都城組
2014年2月12日素案発足
正定寺住職&総代会

【前提条件】

- 一、 この考察は、災害発生から48時間以内に時間を限定しています。日頃から住職・寺族・門徒・市民が問題意識の共有化をはかり、災害へのそなえを考え語り合っていく「検討資料」にしたいと思っています。
- 二、 活動は、門徒や地域住民、行政・消防団などとの連携でおこなうものであって、住職・寺族だけでできうるものではありません。お寺が単独でおこなう支援活動ではありません。
- 三、 お寺が何か特別な災害対策備蓄をおこなうのではなく、今現にあり毎日稼働しているタタミ・ストーブ・扇風機・プロパンガスなどは、見方を変えると備蓄物品とみなすことができます。ガソリンは備蓄できません。公設体育館にはタタミはないのですから、災害時初動の時点ではお寺の施設空間の方がはるかにすぐれた支援拠点なのです。今あるものが非常時にどう生きるか、という視点で考えてみましょう。また、日頃からそろえておくべき「防災用品」についても考えてみましょう。
- 四、 「お寺が地域の災害にどう支援できるか」の問題意識を起こすのと同時並行して、「お寺を災害からどう守るか」の視点も門徒と共有し、育ち合っていきましょう。このような問題意識を総代会や世話人会で継続的な話題にしております。
- 五、 南海トラフ地震などの大規模災害時にはお寺も被災する場合もあり、門徒の家々も被災する可能性があります。お寺は住職・寺族の住居も兼ねており、高齢者や病人・乳幼児が同居していることもあります。その時の状況のなかで、無理せずできることを考え行動することが大切だと思います。

【目的】

お寺は、門徒共有の宗教施設であるとともに、地域の歴史・文化とともにあゆみ、社会教育や人間交流に貢献する施設でもあります。

- 1: お寺は、本堂など礼拝施設をふくむ集会所機能をもつ施設空間です。
- 2: お寺は、地域に居住する門徒（住民）で組織された門徒会の組織（人間集団）です。
- 3: お寺は、住職・寺族が居住して、一年を通して管理されている土日の休日のない場所です。

お寺が日常的にもっているポテンシャルを有効に活用するならば、地域で災害がおこったときに被災者支援活動の一翼をになうことができるものと考えております。

【役割】

地域で大規模な災害が発生したときに、被災者支援の中心となるのは、行政の担当部署であり、警察や消防団や公民館になると思いますが、お寺はその後方支援の役割の一翼を担うことができる施設と備蓄物品とマンパワーをもっています。

正定寺は正定寺門徒会（役員会）を中心として、日頃から災害支援のできるお寺になるように話し合い、災害時支援活動の問題意識の共有化をはかっております。

【情報公開】

現代社会において、お寺は葬式や法事の場所という固定観念が強すぎるあまりに、地域社会において、お寺がもっている施設空間、備蓄物品、マンパワー、経験の智慧のポテンシャルの高さがあまり理解されていないのは残念なことです。

大災害時においては、門徒の有無を超え、宗教のちがいを超え、人間同士としてあらゆる垣根を超えて助け合ねばなりません。その時には、お寺は地域の施設としておおいに責任を果たすべきであると考えております。

そのためには、お寺が保持している施設空間、備蓄物品、マンパワー、経験の智慧のなかで、被災者支援に役立つもののリストを作成し、行政や消防団や門徒にむかって情報公開し、非常時には連携がとれるように日常的に準備しておく必要があります。

地域で災害時に被災者支援と復興の先頭にたっていただく行政や地域の関係各位におかれてはお寺が発信する被災者支援の情報公開を受けとめていただき、災害時にスムーズに連携がとれるようにご配慮いただきたいと願っています。

【支援計画】

地域で災害が発生したときに、お寺になにができるかを考えてみましょう。

本計画を考えるにあたっては、災害発生から48時間のなかで、なにができるかに限定します。

48時間以後は、電気・電話・支援物資などライフラインの復興がすすみ、支援態勢が広域的に動き出すであろうという想定での計画をたててみます。

48時間以後の被災者支援と復興支援については、状況判断しながら対応するものとします。

また、地域で大規模災害が発生した場合、お寺が被災する場合もあり、門徒の家々も被災する可能性もあります。状況判断をしながら対応すると考えるのは、そういう理由もあります。

【協力スタッフ】

お寺では、災害発生時の被災者支援のために活動できるスタッフ名簿を作成します。しかし、お寺単独で支援活動をするのではなく、行政の指揮下で、一般市民ボランティアとも連携協力を取りながら、いっしょに活動することをめざしています。

【人間力の備蓄】 ～ お寺は地域力の低下をふせぐ場所

地域の家庭でお葬式（自宅葬）をつとめていたときには、地域の住民間のきずなも強いものでした。遺族・親族の食事の炊き出しも近所の住民がおこない、弔問者への軽食（ませ寿司・煮し

め) なども、200～300食を庭先で炊き出す力は、どこの地域ももっていました。
今になって考えますと、この葬式での地域力は、災害時の炊き出し訓練を日常的におこなっていたようなものです。しかし近年、葬式は斎場葬へと移行し、食事も仕出し業者にうつり、炊き出しの必要はなくなりました。同時に、住民の結束力も落ちてきています。

公民館の敬老会や夏祭りでも、炊き出し料理は減って、お金と便利にたよっている時代風潮のなかで、お寺は、毎年の降誕会・報恩講などで、仏教婦人会が炊き出しをおこない、いまも五升炊きのガス炊飯器が動いています。

非常時にそなえる備蓄とは、物品の備蓄だけではありません。人間力と経験の智慧を次世代へ継承し備蓄していくことだということも、考えていかなければなりません。いくら最新の物品備蓄をおこなっても、稼働しなかったら無に等しいのです。

都市化して何もかもお金の消費に依存している生き方、オール電化の台所、少人数の家族単位の食生活にひたりにっている現代人は、災害に対してまったく脆弱です。

**その中で、浄土真宗のお寺はマンパワーと歴史と経験の智慧を保ちつつけている「人間力備蓄の場所」なのです。
全国の浄土真宗のお寺はもっと自信をもつべきです。**



pika.jp - 14331844

【大規模災害発生時にお寺ができる支援活動は？】

大規模災害の発生時にお寺としてどんな支援活動ができるでしょうか。
正定寺門徒会が単独でおこなう活動ではなく、行政や復興支援の関連組織や市民と連携しながらおこなう支援活動です。

1 : 避難所への貸し出し支援 【貸し出し物品リストの作成】

市が指定した避難所へのストーブ・扇風機などの貸し出し支援が可能です。

2 : 避難所への炊き出し支援 【炊き出し支援設備・レシピのリスト作成】

市が指定した避難所へのおにぎり・味噌汁などの炊き出し支援が可能です。
お寺には、門徒用厨房があり、200食ぐらいのご飯炊き（ガス炊飯器）・味噌汁づくりができます。調理するスタッフは、仏教婦人会もいます。一般市民とも連携しましょう。

3 : 被災者救援や復興にたずさわる人々への給食支援

地域のいろんな組織と連携すれば、お寺の厨房でおにぎりや味噌汁の炊き出しをおこない、消防団や市民の復興ボランティアへの給食支援が可能です。
お寺の門徒会館で食べてもらおうと、運搬もしなくてよいし、トイレや休憩所にもなります。運搬する給食支援の場合は、運搬スタッフと車両が必要になります。

注：炊き出し給食支援をおこなう場合は、支援スタッフを数名ずつのローテーション制にします。家事もあるので、専従で長時間仕事をするのは無理が生じます。

4 : 給水支援

正定寺には、地下8.5mから常時自噴する飲料水があります。
災害で市水道網が寸断されたときには、飲料水の給水支援が可能です。
近年の洪水では土砂だけでなく、倒木が橋桁を直撃して、橋を破壊します。橋桁には水道管が通っていますから、倒木の直撃を受けると水道管が破れ、断水状態になります。
1993（平成5）年8月の山田川氾濫災害での利用実例があります。
正定寺境内に自噴の防火貯水槽があります。消防用または水害のあとの汚泥掃除用に利用可能です。1993（平成5）年8月の山田川氾濫災害での利用実例があります。

5 : 被災者の一時的な避難所施設としての受入支援

お寺はもともとタタミの部屋、冷暖房、湯沸かし施設、ストーブ、扇風機、トイレなどの集会所機能を完備しており、日常的に稼働しています。
加えて、米・プロパンガス・厨房施設など支援物資となりうるものも備蓄しています。
これらを日常的に点検し、保存食料などを備蓄することで、非常時の避難所施設としての一翼をなうことが可能です。あくまでも現在あるものを活用することが大前提ですから、備蓄にかかる予算はさほど高額にはなりません。

6： 被災者のこころのケアとしての支援

被災者の悩みを傾聴したり、ふれあいの場所を提供することにより、被災者のこころのケアの支援が可能です。住職や坊守の専門の仕事というよりも、門徒同士が愚痴を言い合ったり、聞き合ったりでもいいのです。そばに座ればいいのです。

7： 防災訓練

このような支援計画が非常時に生きるには、門徒会において、問題意識の共有化をはかり、年に一度でも、住職・総代・役員・婦人会が、災害時支援訓練や防災訓練をおこなうことが必要であると考えていますが、世話人会や法座のときに、ちょっと時間をとって「心構え」を確認するだけでも効果はあると思います。

8： お寺にある備蓄リスト （正定寺の一例）

| 支援対策 | 品目 と 用途 |
|----------------|--|
| ①貸し出し物品 | 灯油ストーブ・扇風機・延長コード・毛布など |
| ②炊き出し支援 | おにぎり・味噌汁・調味料の備蓄・飲料水 紙食器＝皿・椀・スプーン・はし等・ラップ カレーなど簡単なレシピ ガス炊飯器・ガスレンジ 停電でもプロパンガス・薪は使える プロパンガスは業者が毎月点検・満タンにするので日常的に備蓄されています。 カセットコンロ・ガスボンベ・簡易カマド・タキギ もあれば使えます。 |
| ③避難所施設 | 門徒集会所・タタミの部屋・広い廊下など解放できる空間 ふとん・毛布など トイレ・非常時簡易トイレ（水洗が不可能な時） 避難所での食べ物は待つことができますが、排泄は待てません。 電気・水道が止まった場合は、常設水洗トイレでもビニール袋をかぶせてその中に排泄し、凝固剤を投入して、燃えるゴミで出すという方法が安全です。 水洗トイレの浄化槽には処理能力人数制限があるので、処理能力を超えると機能マヒにおちいります。トイレ対策は大事です。 タオル・マスク・ホッカイロ・車イス・体温計・血圧計・トイレトペーパーなど |
| ④電気対策 ガス発電機 | 非常用ランタン・乾電池があれば、通路・トイレを照らせます。 お寺にはロウソクが常時あります。 プロパンガス発電機（三菱 MEGASEG 2200W）ですと、30キロボで30時間の連続運転が可能です。ガソリン発電機は約10時間で燃料補給です。オイル交換まで最大100時間の連続運転が可能です。 住職留守中に災害発生することもありますから、女性でも運転できる機種であることが大切だと思います。 ガソリンは時間劣化しますし、法令によって備蓄できません。 発電機から→照明・スマホ充電・ラジオ・テレビ・小型冷蔵庫への電源供給 ■ 2019/03 門徒厨房一棟の電源を九電供給（遮断）からガス発電機（供給）に切り換えて、災害時に厨房が完全に稼働する電気工事を行いました。 |
| ⑤組織力 | 緊急時電話連絡網 対策本部の設置 避難してきた人の中でのまとめ役 |
| ⑥保管場所の公開 | 防災グッズの保管場所は、住職・寺族だけでなく門徒会幹部も知っていることが大切です。 物品保管場所・使用方法・避難所として解放する場所の制限については日頃から共通理解をしておきたいと思っています。 |

※ ここに掲載できなかった防災グッズについては、インターネット等でお調べください。

※ 皆様のご指導ご助言をいただき、住職・寺族・門徒・市民もふくめて「みんなの話題」にさせていただければ幸いです。
あなたもいっしょに考えてくださいませんか。

2019/06/14 正定寺住職 尼子 玄章

<https://amidanet.sakura.ne.jp/> 正定寺 HP
Yahoo! 検索 【 amidanet 】



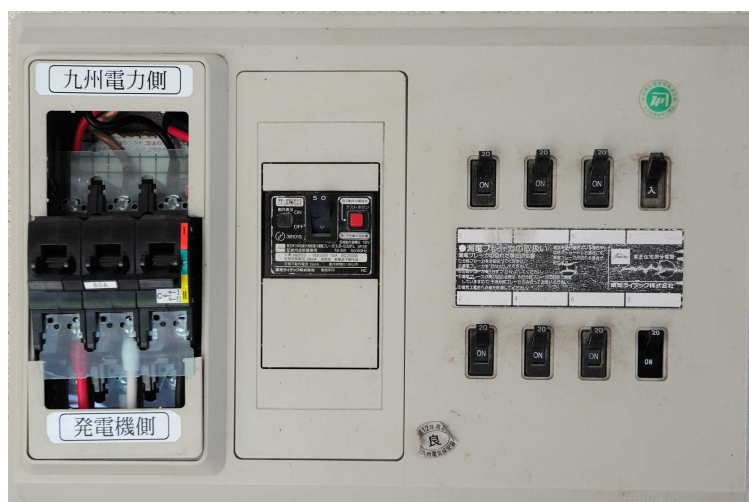
サイドメニュー 「お寺にもできる災害支援」に資料公開
「ダウンロード」に「都城のかくれ念仏」など資料公開

プロパンガス発電機
三菱 MEGASEG 2200W

九電と発電機の電源切換器



100時間稼働ごとにオイル交換



レバーを九電側遮断から発電機供給に切り換える装置

- 発電機だけですと、発電機のコンセントにつないだ機器にしか電気供給できません。

分電盤に直結すると、門徒厨房の照明・水道ポンプ・冷蔵庫・コンセント・調理機器などすべてが稼働できます。
ただし、災害時は給電の送電・停電が予告なく繰り返されるため、給電側を完全に遮断しておかないと、発電機側に給電の電力が逆流した場合は、発電機は一瞬で壊れます。